（十七日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價｛壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

戀愛疼痛時代（上）

仲里法學士方　小泉貢

無名の青年詩人蒔葉は贔負を超ねて、自分を執拗く愛する滿里子夫人に、或る種への不安を覺えずにはゐられなかつた。

—夫人にも戰慄すべき戀愛の罪惡が秘められてゐそうに思へてならなかつた。ブルジョアと云つても纏りの付かないブルジョア、それに御念の入り過ぎた醜男都築仙藏の妻になつてゐる美しい滿里子夫人！

なにか、秘められし罪惡か夫人の過去にありそうに思へてならなかつた。都築は商用で殆ど旅ばかりしてゐる男だつた。

×

彼の詩は、胸が透くようだ、なんて誇長した贔負振りをしてゐる滿里子夫人の邸へ、彼が參じると、いつかもう彼を放そうとはしない夫人だつた。

×

彼は、謎めいてゐる滿里子夫人の過去を知ろうとした、そしてその機會を狙つた。

×

夜！　滿里子夫人と彼は炬燵に這入つてゐた、夫人のトロンとした瞳はいかにも淫蕩にみいた、夫人のフレキシビリティに富んだ手は彼の手を握りしめてゐた

彼はこん膽があつて夫人のなすがまゝに委かしてゐた。

夫人の足が淫らにも彼の足にのつけられて來た、だけど彼は我慢してゐた、夫人の身體が彼の身體に觸れ寄つて來た。夫人の瞳は淫慾に燃えてゐた、と突然夫人は彼の身體にしがみついて來た。この淫蕩振りには追の彼も呀然とならざるを得なかつた。

×

「——奥様、東京の旦那樣からお電話でございます」

障子をあけ　廊下で、遠慮深さうな女中の聲があつた。

その聲に彼はホッとすることが出來た。夫人の顏には明瞭に不快の色が浮んだと、突慳貪な聲が發せられた

「あたしでなきゃ不可ないの！其麽ことアないわ、婢が開いて呉れたらいゝぢやないの！」

「——ですけれど、奥樣に是非といつてゐらつしやるものですから——」

女中は非常にまごついてゐるらしかつた。

「——」

夫人は不快そうに障子を開けて、廊下でスリッパをつッけて行つた。

「——この時機だ！夫人の過去を知るのは。なにか手紙かなんか無いかな」

彼は鏡臺の抽斗をかきまはして、とうとう夫人の過去を知る、夫人の手記を發見してしまつた。

明日の吉凶
舊暦十二月廿六日
新暦一月十八日

▲一白　無謀短氣に走り易き日何事にも愼みが第一▲二黑　運氣壯なる日名弘め企業開店何れも大吉日▲三碧　至極結構なる日急がず思ふ所に達せん▲四綠　依賴心を起さず自ら勵む時は發展を見るべし▲五黃　質朴を主として倦まざる時は大吉の日と成る▲六白　初め吉くして終りを愼むべき日金談緣談凶▲七赤　心忙しく後から火に追驅けらるゝ如き日▲八白　運氣强く是までの難事も一掃せらるゝ吉日▲九紫　先き走る時は思はぬ淵に陷る日遅くと急ぐな。

吉田眼科醫院

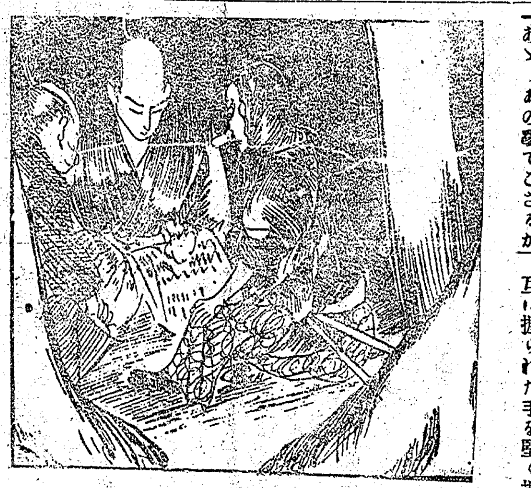
講談

血で血を洗ふ

(233)

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮毫

忠義の誓



「御不審は御尤ぢや、實は御身の一大事をた報らせ申さうためでござる」

と、清水八郎が云つた

「拙者の身の一大事——」

怪人はキッと相手を見た

「昌康公が明日裏山の巻狩をする旨を布令出したのでござる」

「あゝ、あの事でござるか、その事ならば横山氏から只今承つてござる」

「おゝ、もう横山氏からお聞きになつたのか」

八郎は大五郎の顏を見て云つた

「巻狩の布令を聞いて大いに驚き、一大事と存じて此の由を告げやうと、これで三晩の間此の松並木で待ちあぐみ申した」

大五郎は笑ひながら云つた

「ほヲ、左樣でござつたか三晩の間た探しなされたとは拙者よりお偉い、今頃のこのこ出て參つたのがお恥かしい」と八郎も輕く笑つた

「いや、そのやうなことはござりませぬ」

と大五郎は敬ふやうに云つた

「御兩所には、それほど迄に拙者をた案じ下さる段有難き仕合せ、た禮の申しやうもござらぬ」

怪人は感謝した

「いや、た禮には及ばぬ何事もお家の爲め、また先君成昌公の忠義のためた互に力を協せて正義の刄を揮ひ惡人輩を討ち滅さうではござらぬか」

八郎が云ふ言葉に重ねて大五郎も忠義一途に云ふのであつた

「全く、御兩所の御心底を承つて百萬の味方を得たに增さる思ひでござる、今後は宜敷しくた力添へがた賴みいたしたい」

と怪人は左右に二人の手を握つて云つた

「御同樣でござる、協力一致、必ず惡人輩を滅し申さうよ」

互に握られた手を堅く握り返して三人は金鐵の誓をした

「然らば用意の爲め拙者はこれにてた別れ致すが御兩所にた願ひしたいことがござる」

「何事にござる。忠義のた役に立つ事なら何んなりとも厭ひ申さぬ」

二人は同音に云つた

「余の儀にござらぬが、もう一人の怪人にも此の由をお傳へが願ひたい」

「判り申した、その事なら清水氏もお歸り下さつてよろしい拙者はもう一人の怪人をよく存じて居りまするに依つて拙者一人で此の處で相待ち申さう」

と大五郎が云つた

「成程左樣でござるか、それは横山氏た一人の方がよいかも知れぬ」

怪人が贊成した

「左樣か、然らば拙者は引揚げることに致さう」

と八郎もうなづいた。そして何か考へて

「どうでござらう、それからお互に機脈を通じる何かの方法が必要でござるまいか」

と怪人に向つて云つた

「成程、それは必要のことでござらう」

怪人はうなづいた

「大いに必要[illegible]ござらう、今回の如き重大事が起つてもお報せしやうと思つても急の間に合はぬ、今夜は折よく御會ひしたのでよいが、左もなくばお報せすることが出來ないところでござつた」

と、大五郎も云つた

「何と致さう」

と、三人は相談したが側の松の木に目印をつけて用件のなる時には秘かに用件を記した紙片を根方に埋めてたくことにしやうと決定した、そして怪人は晝でも夜でも城下へ出た時には人目に觸れぬやうに紙片を堀り出して行かふといふのであつた

相談が決つて、怪人は二人に別れを告げて去つた、清水八郎も横山大五郎一人を殘して我が家へ歸つた

第十六期營業報告（昭和二年下半期）

貸借對照表

資產之部

未拂込資本金	三、七五〇、〇〇〇、〇〇
線路屋内工作物	五一八、六一三、五一
機械器具貯藏品及建物什器	六〇七、三八〇、二四
有價證券	一六、五〇〇、〇〇
假拂金	五八、三三三、六五
未經過保險料	三四七、七〇
受取手形及未收入金	二四、九四二、七〇
發電所勘定	一、五三八、一四八、六六
變電所勘定	一〇六、一七六、五五
預ヶ金及現金	二〇七、八三三、一〇
合計	六、二七八、三五五、一三

負債之部

資本金	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
諸積立金	一二四、五一五、〇〇
假受金	八、四五一、五七
社債及借入金	一、〇〇五、〇〇〇、〇〇
支拂手形及未拂金	四〇、八三三、一三
未拂配當金	五一九、三四
當期利益金	一〇八、八八六、一〇
合計	六、二七八、三五五、一三

利益金處分

當期利益金	一〇八、八八六、一〇
内	
財產減價銷却	一〇、〇〇〇、〇〇
社債利子引當	八、四三七、五四
諸稅金引當	二、〇〇〇、〇〇
諸積立金	五、五〇〇、〇〇
役員賞與金	四、五〇〇、〇〇
株主配當金（年一割二分）	七五、〇〇〇、〇〇
後期繰越金	三、四四八、六〇

昭和貳年十二月三十一日
植田水力電氣株式會社
取締役社長　金成通
取締役　安島重三郎
同　白井博之
同　高岡唯一郎
同　小林減次
同　古川傳一
監査役　根本祐太郎
同　馬上誠一

第六十四期決算報告

貸借對照表

資產之部

拂込未濟資本金	三五二、五〇〇、〇〇
諸貸付金	八二八、二七二、二六
割引手形	三九、五三八、九四
荷付爲替手形	一八、三八〇、一四
他店へ貸	七、一三二、三〇
奥羽銀行同盟會基本金	三五〇、〇〇
諸有價證券	三、五一〇、八五
貸付有價證券	一、八二四、〇〇
營業用土地建物什器	二〇、一四三、六〇
所有動產不動產	一三、五三一、六八
現金	四三、八三三、八七
合計	一、四五五、九八六、六六

負債之部

資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇
諸積立金	六六、七〇〇、〇〇
諸預リ金	六四五、一四五、〇七
他店ヨリ借	一九、九三三、八五
諸借入金	一八七、五三六、〇〇
未拂配當金	六六五、五七
未拂利息及未經過割引料	一五、七六五、九六
第二種所得稅及資本利子稅	四〇七、三二
當期純益金	二〇、四三二、一六
合計	一、四五五、九八六、六六

利益金處分

一當期純益金	二〇、四三二、一六
諸積立金	二、〇〇〇、〇〇
役員賞與金	九〇〇、〇〇
株主配當金（年七分五厘）	五、五三二、二五
後期繰越金	一二、〇〇一、〇三

右之通リニ候也
昭和參年壹月拾四日
福島縣植田町
株式會社磐東銀行
取締役頭取　江尻博孝
専務取締役　金成通
取締役　金成欽次
同　安島重三郎
同　金成金三
監査役　岡山保治郎
同　古川傳一
同　山野邊文雄

監査役改選ノ件ハ岡山保次郎再選古川傳一再選金成欽次取締役ヲ辭任シ新ニ常務監査役ニ當選相成リ候

廣告

鼻のクスリ　チクノール錠
痔の最高内服藥　ダイサン錠
平町五丁目角
山野邊藥局

一圓毎に福引券一本進呈
福引景品積んで山の如し

二町目聯合大賣出し

舊十二月廿二日より廿八日まで
新一月十四日より二十日まで
七日間

五町目福引大賣出し

一、御買上　壹圓毎に福引券一本進呈　五十錢は半本差上げます
一、期日　舊廿四日より舊卅日迄（七日間）
一、景品　一等以下六等迄大車輪　大奮發頗る豐富空籤なし
一、引換所　釜屋筋向

來て見よ！平町福引大賣出しの大元祖五丁目東榮會へ

診察無料

如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい

院長博士敬白

大谷時計病院
電話一一九番

內科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。

磐城病院

平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

金牌一等賞數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

歡待（くわんたい）……

先づ奬むるに蜂ブドー酒の一杯を以てす
その美味と滋養……
賓客を饗應すに
最も意義深きもの！

蜂（ハチ）ブドー酒（シュ）

『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を皆樣のお奬めに依り且は時勢の推移に鑑み今後『蜂ブドー酒』と改めます　なほ市場にある從來のものは其儘でして御安心の上引續き御愛飲を願ひます

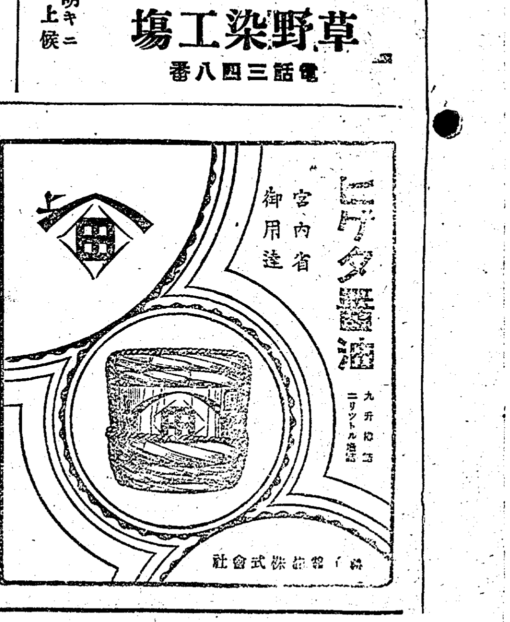
株式會社近藤利兵衛商店

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員がた伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番



宮內省御用達

平町田町
特約店
廣瀨支店
電話五四番

郡下校長が集まり
口問筆答を討議
中等校入試撤廢に伴ひ
或は筆問口答に

石城郡下小學校々長會は來る二十日午前十時より平町第一小學校に於て開き着々迫る郡下の問題たる中等學校入學試驗撤廢に關する各學校長の希望意見を纏め之れを磐中、磐女兩校長に提議し之れによつて右兩校の入學方法に資したいとの希望であるが去る十三、四の兩日福島市に開かれた縣下各郡市代表小學校長會に出席した曾我平第一校長は同協議結果の内容について報告をなしその上本問題の討議に移る筈であるが縣下代表校長會の決議は大体文部省の既定方針に準據した口問筆答にするか筆問口答によるかはその學校個々の仕意に決する事となつたので磐城中學、磐城高女の二校では之れを郡下小學校長の意見に參酌して意を決したいとの考へから今回郡下小學校長會の開會を見るに至つたものであるが、今年初回の入試撤廢は實行の後には夫れ〳〵種々の長短が出るもの如く試驗撤廢の試驗であつて相當々局者の苦心を拂はしめてゐる

平町役場で
青訓入生調査
各區に分擔

平町青年訓練所生は過般二師團士官の檢閲を受け師管内第一位の成績をあげたが本年は明治四十四年十二月一日から大正元年十一月三十日まで出生した者を新入所生として收容する事となり十三日より二十五日まで平町役場吏員は各區域を分擔し調査をなしつゝある

素破らしい勢ひで
新興の小名濱
春日に勇む槌の音に
豪勢な發展振り

石城郡小名濱町は縣營漁港の完成と繼く國營商港の修築計畫から擴張進展夥き勢ひを示し前記漁港の埋立地には草分けの建築である漁業組合事務所、初め既に本業を開始した東洋捕鯨會社並に會社の姉妹關係を有する大阪市伊奈那肥料及び鯨骨其他の加工工場等續々として建設され附近の發展に伴ふ商家の工事もまた少なからず此處ばかりは眞に不景氣を知らない昇龍戊辰の春の日が照り輝いてゐる、唯遺憾なのは多數の廻船等に對する淡水薪炭の供給設備であるが之も近く充分なるものが出來る筈で一方同港陸揚げ漁獲物の輻そう處理に備へられた磐城水産工業會社では一昨年の創設以來豫期以上の好成績に目下約百坪の大納屋を增築中であり更に漁業組合事務所裏に百八十八坪の縣有埋立地貸付を許可された平製氷會社では同工場を本年夏季の需用期迄に竣工の見込で工事を急いでゐるが完成後は數十艘の廻船にも其供給に間誤つかぬばかりでなく從來の岸壁迄の運搬料其他が減ずるそれだけ安價になるが如き同町の發展は今や全く旭日昇天の勢ひである

入試撤廢問題
社會に禍根を殘すな
中等校長に希む

◇中學校へ入學準備をせずに試驗を受けられるやうな機運をつくつた文部省の訓令は機宜に適した大英斷である、然もこの訓令彈力性のあるのがよい若これが限つた窮屈なものであつたら折角訓令も實行困難に陷るだらう。

◇中等學校長がこの訓令に準據して入學試驗の方法に頭を惱ましつゝあるのは學校長の腕試しし試驗のやうな感じを吾々に與へる第一に小學校長からの具申せられた學業成績の報告について考へなければならない小學校でも學校により年より成績の標準が一定しない中には優良兒のみの組もあつたり又年齡の差等もあつたり或は家庭教師の手傳ひや受持教師のひいきも加はつたりして一樣に席次だけで決定は困難である

◇單に小學校の席次其のものを以て考査選拔の決定の第一條件とするは將來學校に於ける成績競爭となつて準備教育以上の弊害を生ずる恐れがある小學校の席次に選拔の標準を定めるならば寧ろ適宜員數の選拔を小學校長に一任した方が適便利である、苟も中等學校長が選拔考査するならば學校、性質により小學校の成績の見方を考慮しなければなるまい例へば主要學科とを切り離して見るのも一つの見方である小學校の學業成績を合理的に愼重に取扱ふことは中々複雜で多人數を取扱ふ上に却々容易ではない

◇訓令　趣旨からいつても人物考査が入學の許可を決定する第一條件ではあるまいか即ち圓滿な人格者で十分に展び得る頭腦の持主であることが選拔の眼目でないかと考へらるゝ、第三の試問は口頭でも筆記でも意志が發表できる程度なら差支へない、事情が許すならば併用することが最も確實である

◇試問も尋常小學校卒業者に課する以上は義務教育で修得した常識でもつて欲しい然し課題の如何によつては改正の趣旨に逆行することがないとも限らない此際準備教育撤廢の好機運にあたり將來之に副ふ弊害の生ぜないやうな方針で進んでいたゞきたい時々規則の改廢は試驗地獄以上に兒童並父兄に苦痛を與へ大なる義務教育の根底に動搖を來し社會に禍根を殘す恐れがある。

舊年末を的てに
香具師の横行
田舍出の人を欺して
平署嚴重取調べ

平町商街は舊歳晩に入つて異狀な活況を見せてゐるが例年此の頃の活況を當入れるに附近村落からお正月の買出しに町へ出て來るお上りさんを相手に巧みな手段を弄しては甘い汁を吸ふ惡大道香具師が横行するので平署では過般來此等を取締るべく特別執行を開始してゐるが今十七日午前十時頃本町目抜の三丁目角に網を張つた廿才前後の青年が例に依つて物珍らしそうに大賣出しの活況に見惚れてゐるたゞ上りさん達を相手に「舶來品だが整理の爲めに勉強する」とばかり三文の値もない剃刀を一圓五十錢に賣り飛ばしてゐたのを平署吉田高等刑事が發見本署に引致取調べたところ此奴は當時住所不定千葉縣山武郡白里村生れ八角春吉(三〇)で剃刀を買求めた者には籤を曳かせ一等には金拾圓を贈呈すると巧みに僞いてゐたものである事を自白した

植電今期成績
一割二分配當

石城郡植田町植田水力電氣株式會社今期營業成績は一割二分の配當をなし內容嘖々たる餘裕を見せてゐるが利益金の處分左の如し

金十萬三千百九十五圓六十三錢	當期利益金
金五千六百九十圓三十八錢	前期繰越金
計十萬八千八百八十六圓十錢	
内金一萬圓	財産減價銷却
金八千四百三十七圓五十錢	社債利子引當
金二　圓	諸税金引當
差引金八萬八千四十八圓六十錢	當期純益金

之れを處分すると

金五千五百圓	積立金
四千五百圓	役員賞與金
金七萬五千圓	株主配當金(年一割二分)
金三千四百四十八圓六十錢	後期越繰金

四倉町の
納稅表彰式
成績頗るよし

石城郡四倉町では十五日午前十時から同町小學校新校舍に於て大正十五年度優良納稅者の表彰式を擧行したが前年度に比較して組合の增加と個人優良者の增したことは著しいと

△第十八區納稅組合鈴木茂吉外十一名△第二區の一組合符子之吉外十七名△同區の二組合商野孝一郎外十一名△第三區の一組合門馬直吉名八名△同區の二菅波歲之助外廿名△第四區組合鈴木克哉外十九名△五區組合佐藤誠一外四名△第五區の二組合山野邊寅之助外八名△第八區組合橋本保平外廿七名△第十區組合四十名△第十七區組合青木榮吉外卅二名△第十二區組合卅一名△第十三區組合卅一名△第十四區組合十六名△十五區組合八名△第六區組合九名△個人小室萬五市外百六十一名

平地方ラヂオ
礦石化
仙臺放送局の
完成三月下旬

現在三球眞空管式にあらざれば容易に聽取する事出來ない平町地方のラヂオも仙臺放送局の完成によつて鑛石受信機にて聽取する事が出來るため同地方のファンは其完成の速ならん事を待ちわぐんでゐるが既に大半の工事は竣工の期に近づいてゐるといふから三月下旬あたりから愈々其恩惠に浴すことが出來る樣になるであらうと

各町聯合賣出しに
景氣つく舊歳末
福引景品に人氣を呼び
平町再び暮氣分

平町の舊歳末賣出しは本町通りの各町にて福引付聯合の大賣出しや其他の賣出しにて既に各商店の装飾も遺憾なく整ひ新歲末以上の活氣を添はしめてゐるが本通二町目から五丁目迄は各町紅白の柱を立て門口に福引大賣出しと大書して其入口を飾りたて外各商店の軒看板なども色とり〳〵新調されて購買心を挑發させてゐるが紅白の柱や大賣出しの赤旗萬國旗等は縱橫蜘蛛手に張り廻され時ならぬ花の隧道を現出したかと思ふばかりに飾りたてられ大路小路は再び暮氣分で賑ひはじめた

因に二丁目に於ける賣出し第三日十六日の福運者は左の如し

(一等)桐簞笥神谷村鎌田阿部イノ(二等)八疊茣蓙平町三丁目會川ミネ(三等)平町紺屋町佐藤三郎、(三等)毛布好間村小田炭礦山内安太郎、外套內鄉村小島佐藤アキ(外三等)夏井村菅波渡邊喜六外十三名

菅谷良之助

◇◇◇◇◇
比佐昌平を取調
二名共謀で不正賣藥
片やは鈴木寛

福島縣比佐昌平(四〇)茨城縣鈴木寛(四四)の二名は賣藥行商人は四五日來新潟市にいりこみ「大阪市戰後記念團で製藥せる征露丸」と稱し效力もないのを市內數ヶ所に押賣りしてゐることを發覺し新潟署に引致取調べを受けてゐる

平署恒例による
武道昇級發表
有段者五名を擁ひ
縣下に誇る實力

平警察署では恒例に依る昇段、昇級劍道試合を略行し今十七日此れが發表を爲した

(初段)七海部長、吉田高等刑事、赤津巡査(一級)長山巡査(二級)渡邊、本田部長、小林、高橋勝、高橋敬巡査(三級)片寄警部補、伊藤高警、佐藤部長、榊原、宇南山、栃本渡邊、鈴木、渡邊公巡査(四級)齋藤部長、志田二瓶、眞弓、小山田、阿部小林、荒井、金田巡査(五級)橋矢出部長、佐藤鴨原、蛭田、青木、高橋信、兒島、遠藤、瀨戸林、澁木、菅野、持舘、佐川、井上、高野、大賀(六級)以下略

即ち新段は三名で、鈴木忠正四段を筆頭に前記三名の外青沼部長を加へ平署には五名の有段者を有する事となり縣下有數の腕利揃をなつた譯である

平卓球會役員

昨報平卓球協會創立總會において左の如く役員を決定し總平銀行並に七十七銀行平支店樓上において火花を散らす卓球戰が演ぜられた

會長平岡保、副會長小原長英、幹事長横山顯、幹事大內秀次郎、織田安次郎、大塚鳳三郎、佐藤稔、高木不二男、山部正宣、中田良藏、川角豐太郎

錦村の女
他郷で心中
宇都宮で發見

石城郡錦村字荒町三一番地萬次郎長女鶯チヨ(三三)は水戸市下市裡七丁目飲食店三輪亭に酌婦として住込み居る内情夫なる新治郡土浦町二十六番平長男山本增雄(三八)と主人に宛へ遺書を殘し家出したので自殺の虞あり手配中十五日午後十一時頃河內郡雀の宮旅人宿宮野甲子吉方に投宿しゐるを[illegible]宮署に連行取調の結果右の事實と判明親を呼び出し說諭の上十六日午後四時放還された

平町の戸籍動態
出生・死亡・婚姻・離婚

平町役場に於ける昭和二年中の戸籍調べに依れば出生數は本籍四百七十七人、寄留三百廿八人合計八百五名で死亡者は本籍二百五十七人寄留二百十一人合計四百六十八人で死亡は出生の約半數であるが更らに同年中「高砂や……」で目出度くなつたのが本籍百九十三組寄留四十四組、計二百三十七組の新世帶が出來上り此れと反對に犬も喰はない夫婦喧嘩の果てかあらぬが正式に離婚したのが本籍二十九組寄留二組計三十一組の夫婦別れがあつた譯である

貞治屋三味線店の
賊は鶴屋の客
賍品を山と積んで
平署嚴重取調中

平町字新田町貞治屋三味線店會川貞治方に於いて昨舊臘十二月中東京小山商會ノ外交員本田某が現金百九十餘圓外重要書類入り黑皮提カバンを何者にか窃取されたる事件があり平署では八方犯人の行方を搜査中であつたが昨十六日に至り平署は俄然緊張の度を加へ同夜午後八時頃柴崎刑事は同町二丁目鶴屋旅館に宿泊中の旅客郡山市生れ明石某と自稱する廿七八歲の青年を平署に引致堅くドアーを閉じて秘密裡に取調を進めてゐるが此奴は前記貞治屋に於いて黑皮手提鞄を窃取した有力の被疑者で鶴屋旅館に於いて十六日夜某宿泊人所有の現金百五十圓を窃取し事から足が付いたもので同人の所持品は衣類數十點貴金屬品數十點等夥しく刑事室に山積してゐるらしく尚共犯あるものゝ如く平署では嚴秘に附してゐるが平署近來の大捕物である

内郷の賭博
三組九名逮捕さる

內鄉村大字高坂字御殿礦炭坑夫門馬久彌(三八)同舞木平助(三三)出村健治(三八)の三名は十六日午後七時頃まで前記門馬方で十圓と稱する現金賭博を開張中平署佐藤駐在巡査外三名の警官に踏込まれ一網打盡に逮捕されまた內鄉村大字高坂字御殿中野初一(三六)外六名は十六日午後八時頃同中野方で花合賭博を開張中佐藤駐在巡査に踏込まれ中野は逮捕されたが他の六名は逃走行方を晦ました

みつ子危禍
炭車の下敷き

赤井村大字高萩字山の入薄葉たけ四女みつ(七)は十五日午前十時頃自宅附近の福島炭礦專用軌道炭車內で附近の兒童と遊戲中誤つて線路內に墜落炭車の下敷となつて足部に轢傷を負ひ目下附近病院に入院加療中で生命には別狀ないと

御料理
鰻蒲燒
仕出し
平館隣り
魚榮
電話四二四番

常磐第一ノ大炭礦タル
磐城炭礦ノ石炭
◎石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
值段正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前
阿部石炭商店
電話二三七番

一圓毎に福引券一本呈上
五十錢でも半本差上げます
舊十二月二十三日より十二月二十六日迄
新一月十四日より一月二十日迄
四丁目聯合福引大賣出し
◆景品　桐簞笥、夜具、布團、メリヤスシャツ、反物等々積んで山の如し
四丁目商人の實質本位の商ひ振りを御試めし下さい

時計の進歩！遂に
振動不感の腕用時計を生めり
打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です
TRADE MARK
NIPPONOPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
吉
石城小名濱町
清水屋
小野晉平
電話六番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡(城山)
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番